

登山・登攀の記録

西チベット・カイラス山巡礼

日時:2005年8月18日～9月11日(登山期間:8月28日～29日)

メンバー:新谷岳史(単独)

カイラス山とはチベット仏教・ヒンズー教・ラマ教の3つの宗教の聖地である。聖地なので、むろん現在のところは未踏峰。長らくチベットの大自然とチベット仏教の神秘性に憧れてきた私は、学生最後の夏休みにチベットを旅行し、カイラス山のトレッキングを楽しんだ。

記録

・西チベットへの入城

西チベットでの自由旅行は基本的に中国の法律で禁止されているが、実際にはかなり黙認されている。私は関空から北京経由でウルムチまで飛び、ウルムチから丸一日鉄道に乗って新疆ウイグル自治区のカシュガルに着いた。新疆は人種・宗教・風俗・食べ物のいずれも中国沿岸部とは大きく異なり、まったく別の国のように感じる。

新疆からチベットへは新蔵公路という無舗装で最高5200mの峠を越える道をたどらなくてはならない。普段は数日に1本バスがあるようだが、当時は情勢がやや悪化しておりバスは休止していた。そこでウイグル人母娘の助けを借りて、西チベットに向かうトラックをヒッチハイクしてチベットに向かった。

新蔵公路は想像通りハードな道だった。24時間ハードな揺れに悩まされ、高山病による頭痛で頭が割れるように痛い。55時間30分かかけ、ボロボロの体でようやく西チベットのアリにたどり着いた。これまで体験した交通機関の中で最もハードだった。

・カイラス山のトレッキング

しばらく休養して高度順化も進んできたのでカイラス山のトレッキングに向かう。アリからカイラス山トレッキングの基点となるタルチェンまで乗り合いバスで1日。次の日、カイラス山のトレッキングに出発する。チベットらしい、地平線まで広がる草原。馬、ヤクといった家畜やウサギのような小動物も頻繁に目撃する。はるか遠くには端麗な形をした秀峰ナムナニ峰が見える。この景色を見ただけでも、苦難の新蔵公路を辿ってきた甲斐がある。

夕方にはこの日の宿、ディラ・プク・ゴンパ対

岸の宿に到着する。カイラス山北壁がすごい迫力で見え、神々しい風景だった。この山が3つの異なる宗教の聖地となったのも納得がいった。

翌日、高山病に苦しみ、バテバテなってドルマ・ラ(5667m)峠を越える。ドルマ・ラでは無数のタルチョが強風で揺れていた。ドルマ・ラからはカイラス東面の風景を楽しみながら、タルチェンに戻りカイラス山のトレッキングは終了した。

旅はまだ終わらない。タルチェンからトラックをヒッチしてアリに戻り、アリからなんと5泊6日(110時間)!寝台バスに揺られてラサ到着。それまで粗食だったのでラサの食事はとても美味しく感じた。数日間ポタラ宮殿などのラサの観光地をめぐったあと、北京経由で日本に戻った。

(記/新谷)



朝日に輝くカイラス山北壁